

# 平成 27 年度 村上市図工部 活動報告

部長 石栗 知恵（上海府小学校）

## 1 研究主題

基礎基本を身につけ、生き生きと自分の思いを表現する子ども

## 2 研究の実際

### (1) 実技研修会【平成 27 年 8 月 21 日（金） 9：30～11：30 参加者 19 名】

新潟市立升潟小学校教頭 南 伸裕 先生から、「絵画表現における基礎基本を身につけさせるための効果的な指導方法」また、「子どもが生き生きと自分の思いを表現する題材例」というテーマでご講義をいただいた。共通事項の指導に当たっては、子どもがどのような感じ（色・形・イメージ）をもっているのかを確かめながら指導を展開していくことの大切さを学ぶことができた。また、図工は子どもが自分を表現することが大事だということを確認できた。

実技研修では、山口百恵「プレイバックパートⅡ」を聞いて思い浮かんだことを絵に表したり、自分だけの「魔法の筒」を作り、それを使って友達の顔を描いたりした。（一人で全部描くのではなく、各パーツを別の友達が描く。）子どもが苦手と感じる部分を取り除き、楽しく活動できるいろいろな手立てを教えていただくことができた。2学期からの図工授業のヒントを得ることができた。



### (2) 授業研修【平成 27 年 12 月 7 日（月） 14：00～16：40 参加者 16 名】

さんぽく北小学校教頭 磯部 睦 先生（図工部顧問）を指導者とし、村上市立西神納小学校 星野 桐子 先生が提案授業をした。5年生の彫り進み版画題材「ふしぎなつぼ」を用いて、子どもが想像を膨らませ、「描きたい」という思いをもたせるために次の手立てを講じた。

- ① 描き表したいものをなかなか決めることができない子どものために、物語を読み聞かせたり仲間のアイデアに多く関わらせたりする。
- ② 思いは膨らむが、その思いをどのように表現したらよいかわからない子どものために、作例を見せたり、仲間との関わりの中でいろいろな表現に触れたりさせる。

協議会では観察対象児の姿を洗い出し、その姿から対象児の追求の意識を推測し、考察する授業分析を行った。1人の姿についてじっくりと話し合うことで、その子がいつ、どの言葉かけで意識が変容したのかを深く考えることができた。協議会ではその他にも「作例を見せたことで描けない子どももイメージしやすくなった。」「物語の語り口調が穏やかで、話に引き込まれていた。」「教師の受容的な声かけ（すてき！きれい！いいね！）が子どもたちのやる気を引き出していた。」「彫り進み版画を知るための動画、図鑑や写真などの多くの資料、版木に描いても消せるチョークとメラミンスポンジなど、多くの工夫があった。」などの意見が出された。一方で、「子ども同士の交流をもっと多くしたり、自分のイメージした世界を絵だけでなく言葉でも残しておいたりすることで、自分の世界をより広げることができるのではないか」という課題も見つかった。



指導者の磯部先生からは、彫り進み版画の特性（色のズレによる偶然性の面白さ、そのため下絵は細かすぎず、簡単な方がよいこと、色は2、3色であることからカラフルなものは難しいこと）を見据えた指導の必要性をご指導いただいた。また、一人一人の成長をしっかりと描いた指導をしていくこと（1単元に一人でも二人でもいいから）こそが、図工科における授業改善の視点であることもご指導いただいた。

## 3 成果と課題

- (1) 子どもを指導する私たち自身の指導力向上を目指し、実技研修と授業研修の二本立てで研修を行った。参加者の多くから、参考になった、授業のヒントを得た、などの意見が寄せられた。
- (2) 来年度も引き続きこのような二本立てで、様々な技を学ぶ機会を設けていきたい。